



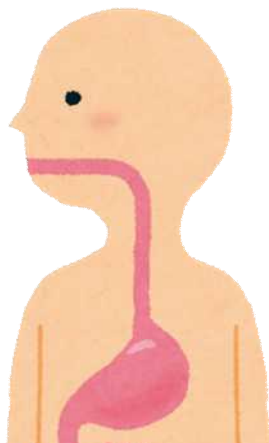
『 アルコール摂取で顔が赤くなる人は食道癌に注意！ 』

食道癌は、飲酒により顔が赤くなる人に多くみられる病気です。それはアルコールを分解する酵素が生まれつき少ないことが原因です。具体的には、飲酒と喫煙の両方をたしなむ60歳前後の男性に多くみられる疾患です。

症状から発見までには、食事がのどを通りにくくなってから、やっと病院を受診され、進行癌が発見される場合と、食事の時の違和感で直ちに病院を受診され、早期に発見される場合があります。

近年では定期的な内視鏡検査により、無症状の比較的小さい段階の腫瘍が発見される場合が増えていきますので、飲酒や喫煙歴が20年以上ある人は積極的に消化管内視鏡検査を受けることが大切です。

とにかく早期発見・早期治療が重要な疾患です。習慣性の飲酒歴がある50歳以上の方は、必ず年に1回の内視鏡検査を受けるようにしてください。



鹿児島厚生連病院
消化器外科部長
奥村 浩